

激流2020

―動乱の世界―

東京大学大学院教授 藤原帰一

- *三つの危機の現実
- *米国による「覇権の後退」
- *イスラム革命の帰結
- *景気減速が動乱を呼ぶ
- *民主化の後退とイスラム革命
- *アメリカはどこへ
- *アメリカ大統領選挙の動向
- *トランプは戦争をしない
- *強まる中東の不安定
- *何の成果もない安倍外交



柴生田 皆さん明けましておめでとうございます。今日は今年第1回目の講演会ですが、こ

こ数年年初めにお願している東京大学の藤原帰一先生に今年もおいでいただきました。

タイトルにもありますように激動の世界になってまいりました。年末年始驚くべきことがいろいろ起きております。われわれは上っ面だけで流されずに、本質的なことをきちんとお話ししてくださいる方をお呼びしたいと思います。これから何が起きるのか、そう思ったことを考える材料を十分にお聞きいただけると思います。それでは藤原先生よろしくお願いたします。（拍手）

三つの危機の現実

藤原 皆様明けましておめでとうございます。

今年も国際関係について経済倶楽部でお話しする機会をいただき、たいへん感謝申し上げます。と同時に、私が年初にお話しさせていただきました機会を得てから何年か経ちますけれども、国際関係はどんどん悪くなってくる気がします。これはおそらく藤原のせいではない（笑）と思います。これは、大分厳しい時代を迎えております。「動乱のなかの国際政治」ですが、動乱という言葉と国際政治という言葉はセットにして何回も今まで使ってきたありふれた言葉です。いつも動乱ということ、つまり動乱がないということではないかという気がするぐらいです。